

第14回「ハートミーティング」意見交換の内容について

メンバー　　さんかくの会は、平成6年に設立され、15年目を迎えました。日頃から男女ともに一人ひとりがやりがいをもって、輝いて仕事をして、市役所が元気いっぱいになったらいいなという思いで活動しています。今日は21年度の幹事8名が参加いたしました。

メンバー　　私は、役所生活イコール仕事と結婚生活の両立でした。ですから、当初は役付職員になるとは思いませんでしたが、何人ものキラキラと輝く女性係長に巡り合いまして、そういった係長から指導を受けました。「中途半端はあかん。子どもがいようが、家事をしようが仕事はきちんとやりましょう。どんどん上を目指して仕事をしたらいい。」ということを言われ、その言葉を胸に仕事をしてきました。係長になってよかったなと思います。

メンバー　　私は、企業に向けた人権啓発を担当していますが、いつもさんかくの会の職員や企業の皆様のパワーに元気とやる気と勇気をもらっています。市長とお話できるこの機会のことも庁内外にお伝えできたらなと思います。

メンバー　　私は4月に異動しました。今までと異なる仕事なので、係長として成長していけたらなと思います。また、さんかくの会の活動に参加し、いろいろな機会を通じて先輩方のお話を聞くことができ、よかったと思っています。

メンバー　　私の局は、女性の役付職員は全部で5名です。女性の係長や課長が少なく、これまでは、相談等をする機会がなかありませんでした。初めて係長になった時は、とても不安でしたが、この会で様々な所属の方と話をする機会ができて、視野が広がりました。この会のことを女性だけでなく男性にも、もっと知ってってもらいたいと思います。



今の職場は、女性職員がとても多いです。子育て中の職員もとても多いです。私が出産した当時は、育児サポートの制度もあまりありませんでしたが、今は、制度をうまく利用し、職場も協力しながら、みな仕事をきっちりとしています。

女性職員の仕事の仕方も、以前とくらべて随分と変わってきました。制度のサポートもちろんですが、職場の理解や男性の理解も必要です。私も今後、役付職員としてサポートしていきたいと思っています。

メンバー 納税課にいます。徴収率については、市民のほとんどの方が自発的に納めてくれているのですが、不況や失業のため、厳しい状況です。滞納処分をしなければならないこともありますし、対応が難しい場合もあります。係長としては、そこをいかに職員にやってもらうかを考えています。以前とくらべると、納税の職場に女性職員が増えてきています。女性のほうがむしろ、しっかりと市民の方に対応することが多いので、たくましいと思います。

市長 今年や去年は大変ですね。一番、実感していらっしゃる職場でしょうね。

メンバー 「さんかくの会」の会長をしております。以前は、女性の役付職員が非常に少なかったので、様々な調整をして会を立ち上げたという経緯があります。その頃の方々が、パイオニアとして多分野に進出し、後輩を推薦してくれました。その礎の上に今があります。当時、係長級職員の率は 10 パーセントほどでしたが、今年は 17, 8 パーセント。課長級以上の管理職は 12 パーセント弱になっています。当時のことを思うと、感慨深いです。

「さんかくの会」は昨年、15 周年を迎えました。それに今年は、京都で日本女性会議が開催されます。この二十数年で、市役所の女性職員を取り巻く状況は変わってきました。それは女性自身の力にもよりますが、歴代市長が、女性登用を目玉にして下さったからです。

仕事に関しては、福祉行政にかかわっております。ここ数年、生活相談にこられる方が増えています。福祉行政は、女性職員が多い職場です。区役所は、女性職員が支えています。昔から女性職員はしっかりしていましたが、今の女性職員はもっとしっかりしています（笑）。

一方で、係長能力認定試験の受験率の問題があります。それは男女を問わず、意識の問題です。試験を受ける人のサポートも含めて、受験率を上げるために頑張っていかなければならないと思います。係長能力認定試験の受験可能な年齢が下がったので、市役所全体としても、女性をサポートする体制が整ってきたといえますから、若い人たちに頑張ってもらいたいものです。

メンバー 福祉分野は、女性職員の人数が多いのですが、みなさんきっちり仕事をやってくれています。私が係長に昇任した頃よりも、女性職員は増えています。

私は、以前から、この「さんかくの会」の一員になれることを楽しみにしていました。女性が頑張る姿をカッコいいと思う反面、課長になった今、自分のこととなると日々大変です。昔、よく言われたことが、「ポストが人を作るのか、人がポストを作るのか。」ということです。ポストを開き、ポストに着いていくことで女性の力をつけていく。自分で大変なところに飛び込んでいかないと、自分も変わらないし、女性の登用という点で市役所も変わらな

い。一人では変わりません。私自身が頑張ることで、女性の立場を上げていくのだと思います。

私が出産をした頃は、育休がありませんでした。産休の直前まで、自転車で外勤をしていました。そして、産後 8 週で復帰し、また自転車で外勤をしました。そういう風に、私



だけでなく、みんなが歴史を積み重ねてきて、制度も変わり、人も変わりました。今後、女性職員がもっと輝けるように、私も考えていかなければと思います。

メンバー 私は、今は区役所にいます。市政の第一線の場に初めていきましたので不安でしたが、以前に「井戸端会議」などで聞いた話が、その時にはあまり実感がなかったものの、今まさに役に立っています。

係長能力認定試験については、私は、2人目の子どもがお腹にいる時に受験しました。夫が休日に一人目の子どもを連れ出してくれたので、その間に試験勉強をしました。試験に受かってからは、なかなか残業もできない中で、主任として働きました。忘れもしないのは、2次試験の面接で、「あなたは残業ができますか？」と聞かれたことです。若くして係長能力認定試験に受かって、残業前提の職場では大変です。ワーク・ライフ・バランスの問題です。最近は、「そんなしんどい目をしないで」という風潮もあります。その中で、どうやって試験を受けてもらうかという問題があります。

市長 先輩たちが改革をしてきたので、今がある。先輩が輝いていたというお言葉がいいですね。

教育委員会で仕事をしていた時の話ですが、初等教育は、明治以来、多くの女性教師が担ってきたものです。しかし、校長先生は少なかった。そして、苦労されていた。たとえば、昔、ある校長先生が、女性だからという理由で、就任早々に、地域の方から苦情が出たことがありました。その時、「女性だからという理由だけで苦情を言うのはおかしい。一年経ってから、本当にダメならば来てください」と言いました。一年後、地域の方がその校長をぜひ引き続き自分たちの学校に置いてほしいと言いにきてくださった。そうした先人の女性校長達が頑張ってくれたので、その後も何人もの女性の校長が誕生していきました。

女性の役付職員の比率も前進しましたが、率の問題だけでなく、要の立場

にいる女性職員も多い。女性の役付職員の範囲が、ずいぶん広がっています。

学生さんなど若い世代は、むしろ男性がもっと頑張らないと(笑)。ですが、欧米と比べると、日本はまだまだ男社会です。それが日本の最大の課題です。京都市政にとっても課題です。

メンバー 係長能力認定試験の受験率が上がらないことについてですが、どうしたら受けてくれるのでしょうか。「昇任すると、しんどそう」という声をよく聞きます。

市長 まあ、しんどいことは事実ですけどね(笑)。しんどそうだけれども、同時に、輝いてもいる、やりがいがあって仕事を楽しんでいるというイメージを発信しなければなりませんね。

メンバー 私が出産した頃は、「こういう仕事をしたい」と思いながらも、送り迎えができる部署を希望せざるを得ませんでした。やりたい仕事がある部署は、「残業ありき」の場合が多いですから。それが辛かったです。そして、子どもが成長し、「さあ仕事するぞ！」と思う頃には、残念ながら自分の体調がいまひとつで(笑)。ですから、「仕事と子育て両立支援プラン」は、うれしく読みました。

市長 区役所など現場を回ると、頑張っている女性職員が多いことがわかります。ある退職された区長の話ですが、「区長になってから初めて区役所に行ったが、そこで京都の地域の素晴らしさが本気でわかった。若い時に区役所に行っておくべきだった。」と。そうした現場で女性職員が頑張っておられる。

問題は、次の世代ですね。今回、係長能力認定試験の受験年齢を引き下げたのは、女性が受験しやすいようにという思いもあります。だから、結果を出さないと(笑)

メンバー 現在、「さんかくの会」の会員数は、187 人です。今年は、新規会員が少し減りました。入会することを躊躇する場合があるようです。女性に対する制度が拡充したためか、このような会は必要ないのでは、という意識があるようです。制度を拡充すると、その制度が当たり前になります。ですから、本当は、さんかくの会も必要ないくらいに制度が充実することが一番いいのですが。

市長 女性役付職員が増えていくと、まとまりにくくなることもありますからね(笑)。頑張ってもらいたいです。

メンバー 今年は、活動内容をさらに広げています。例えば、京都で開催される女性会議があります。総会の人数自体は増えています。

メンバー 見えないとわかってくれない部分がありますね。

市長 「見える化」ですね。ひとりひとりが輝き、制度の改革を牽引していき、次の人が、「よし、がんばろう」という。

メンバー もうひとつ、気になることがあります。男女共同参画社会を進めると、少子化につながるのでしょうか（笑）。子どもを持つ喜びを発信したいと思います。結婚しない女性が増えているのではないかと思います。どうしたらいいのでしょうか。

市長 まったく同感です。市役所で婚活ができないかな（笑）。持続可能な社会とは、次世代を育むことです。さんかくの会で婚活してくれませんか（笑）。

メンバー 去年初めて、男性がひとり、入会してくれました。

市長 「一生懸命に仕事をして、気がついたらこの歳やったわ」という人もいますね。昔はおられた、おせっかいに結婚の世話をしてくれる人も最近はあまりいない。40 歳男性で一度も結婚していない人が、全国で約 20 パーセント、大阪が約 27 パーセント、京都が約 19.5 パーセントです。京都市役所は、その率がもっと高いのではないのでしょうか。

実は、京都市の保育行政は全国トップレベルで、保育所の収容定員数は、36,1 パーセントです。横浜市は 18,9 パーセント。市が 75 億円を国の基準以上に出して、内容を充実させています。さらに充実させます。だから、京都市内で安心して生んで下さい（笑）。

マイナスの情報ばかりがありますが、ほとんどの子どもが保育所に入っているのです。ほかには、子ども手当ですね。意見は様々ですが、私はいいことだと思います。それを有効に活かしたい。

メンバー 残念なのは、結婚したり子どもができたりしたら、仕事をやめる女性がいることです。また、夫の転勤でやめたりもします。別の都市で公務員試験を受けて活躍している人もいますが。女性は、夫の転勤についていくことが多く、結婚相手によっては、仕事を続けられません。夫に年賀状



が来ると、自分も仕事を続けていたらなあと思うと聞きます。女性は、人生の岐路で悩むことが多いと思います。係長能力認定試験を受けるか受けないかといったことも、その一つです。私は、係長に昇任すると言われたとき、最初は不安でした。前任の係長は年配の男性でした。業者とのやりとりや、会議でも女性は私ひとりでした。違和感がありましたね、まわりも自分も。

しかし、「機会が与えられたのなら、あなたはできるのだからやりなさい」という言葉で頑張ることができました。

市長 フランスと交流会議を先日しましたが、フランスは責任ある立場にいる女性が多いですね。選挙のときには、立候補者が男女同数でないとかんという制度もあるとか。すごいなあ。

次の世代のことを考えていく必要がありますね。

区役所が、区の提案予算で行った事業がありますが、それを実現させたのは女性職員でした。ものごとを変えていくのは人と人のつながりです。特に、区役所や上下水等の第一線の現場ではそう思います。

ある教授が、京都市の人材は、他都市に比べて10倍から15倍おられるとおっしゃいました。ほんとうにその通りだと思います。この人材をどう生かすか。地域も市役所もそうです。機会の少ない女性が、どんどんと自信を持って出てきてほしい。それには、どんなことが大事でしょう？

メンバー 男女問わず、先輩との出会いが重要だと思います。上司とのつながりも、ですね。私は、「好きなようにやったらいい」といつてくれた上司が多く、「肩書きはない、そんなものは関係ない、お前のやれるところまでやれ」と言われました。それがとても嬉しくて、「頑張らないと」と思いました。なんでもない一言が大事ですね。上司に、「責任はとったから」と言われて、怖くなくなった。何でもチャレンジしようと思いました。そういう、関係が大事ですね。身近な人にそんなことを言ってもらえることが大切です。私もそんな上司になっていきたいと思います。

市長 職場の雰囲気大切ですね。それをさんかくの会がやってもらう。職場とどう連携させるかですね。

メンバー 企業では、人材育成に「メンター制度」を活用されています。さんかくの会は、この制度の代わりに、余りあるもので人を多方向につなぎます。会の1人たす1人は田んぼ（I+I=田）となり、稲を植え、米を作る。その間にも様々な循環を生みます。おたまじゃくしが蛙となり、病気をもたらす蚊を食べ…。こういうイメージですね。多くの田んぼは、温暖化防止にもつながるかも（笑）。

市長 若い時に、あらゆる局を超えて友達を作れと言われました。それも、田んぼの話ですね。日照りが続けば田んぼはひび割れますが、ひと雨降ると元に戻る。それは、雨のおかげだけではなく、地下には水脈があるから。つまり、役所は、表から見ると田んぼのように分かれてはいるが、それぞれの仕事をうまく活かすには、きちんとした地下水が必要です。その地下水は、局を超

えた人間関係だということです。

メンバー 素敵なお話ですね。

市長 できれば、係長能力認定試験の受験可能年齢をもっと下げたらいいと思います。京都市役所の女性職員が働きやすいということは、市民も働きやすいということです。ですから、京都市は、自信を持って進めていったらいいと思いますね。市役所全体としては男性が多いわけですから、理解を促進する啓発等も必要ですね。同時に、まだまだパイオニアも必要ですね。

また、女性が頑張り始めると、男性も刺激を受けてお互いが頑張らねば(笑)。「男の半分は母親が作る。あとの半分は妻が作る」と言いますが。

女性がどんどん働くことができて、子育てもできて。市役所が、そういうモデル職場にならないといけませんね。

メンバー 市長がおっしゃるように、女性が支えている部分もありますし、われわれ女性が男性に支えられている部分もあると思います。素晴らしい女性の上司もいましたし、素晴らしい男性の上司もたくさんいました。そういう方たちに育てられたなと思います。女性も、男性の理解を得ながら制度を利用し、係長能力認定試験を受けたいと思います。そうしたら、男女ともにいい仕事ができる。

今年は日本女性会議もあります。積極的に関わっていくと、さんかくの会に入ろうかなという気分になってもらえるでしょう。会議にただ参加するだけではなく、人の中に入って行って、人の輪を作っていくのが大事なかなと思います。

市長 さんかくの会、おおいに「見える化」してください。

メンバー そうですね。市長にもぜひ御協力いただけたらと思います。

市長 京都市役所が、市役所として政策を立案・実行していくことも非常に大事なことです。同時に、職場の中で、人権文化がきちんと花開く。男女共同参画社会のモデルとなる。こういうことが、市民に元気を与えることになると思います。モデルとなる職場作りをしていかなければなりません。市役所の女性が結婚され、子宝に恵まれて、みんなで協力して子育てをしながら能力を開発していく。こういった市役所モデルを作っていけたらと思います。ありがとうございました。

メンバー ありがとうございました。